【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成22年1月7日(2010.1.7)

【公表番号】特表2005-535549(P2005-535549A)
【公表日】平成17年11月24日(2005.11.24)
【年通号数】公開・登録公報2005-046
【出願番号】特願2004-528493(P2004-528493)
【国際特許分類】
Ｃ０１Ｂ　33/12　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/19　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/72　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/96　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　33/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/18　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/26　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/38　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/42　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　1/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　9/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/08　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０１Ｂ　33/12　Ｚ
Ａ６１Ｋ　7/00　Ｂ
Ａ６１Ｋ　7/00　Ｊ
Ａ６１Ｋ　7/00　Ｋ
Ａ６１Ｋ　33/00
Ａ６１Ｋ　47/18
Ａ６１Ｋ　47/26
Ａ６１Ｋ　47/38
Ａ６１Ｋ　47/42
Ａ６１Ｐ　1/02
Ａ６１Ｐ　9/10　１０１
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｐ　19/08
Ａ６１Ｐ　19/10
Ａ６１Ｐ　25/00
Ａ６１Ｐ　31/04
Ａ６１Ｐ　31/10
Ａ６１Ｐ　37/00
Ａ６１Ｐ　43/00　１０５

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年11月12日(2009.11.12)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
以下のステップ：
ｉ）第四級アンモニウム化合物、又はアミノ酸、又もしくはアミノ酸源、又はそれらの組み合わせ物である安定化剤の存在下で、ケイ素化合物をオルトケイ酸及び／又はそれのオリゴマーに加水分解することによって、安定化されたケイ酸を形成し；
ｉｉ）ケイ酸に対する担体の負荷容量（loading capacity）以下の量で、前記安定化されたケイ酸を担体と混合し；さらに、
ｉｉｉ）それによって得られた混合物を押出して、押出物を形成する、
を含む、ケイ酸含有押出物の製造方法。
【請求項２】
前記ケイ酸がオルトケイ酸及び／又はオリゴマーである、請求項１記載の方法。
【請求項３】
前記第四級アンモニウム化合物が塩化コリンである、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
前記アミノ酸が、プロリン、セリン、リシン、アルギニン、グリシン、又はそれらの組み合わせ物である、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項５】
前記アミノ酸源がポリペプチド又はタンパク質加水分解物である、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項６】
前記安定化されたケイ酸が、２．５～３．５体積％のケイ素含有量、６５～７５質量％のコリン含有量、１５～２５質量％の水含有量を有する、請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。
【請求項７】
それぞれ６５～５０％及び３５～５０％の割合で、前記担体が前記安定化されたケイ酸と混合される、請求項１～６のいずれか一項に記載の方法。
【請求項８】
前記担体が、セルロース、微結晶性セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、もしくはセルロース・ガム、またはこれらの誘導物であるか、あるいは、糖類、ラクトース、ペクチン及びアルギネートの混合物、ポリ‐及びオリゴ糖類の混合物、マルトデキストリン、グルカン類及びその誘導物の混合物、デンプン及びその誘導物の混合物、天然及び準合成ファイバー類の混合物、タンパク質及びタンパク質加水分解物の混合物、またはこれらとセルロースとの混合物であるかのいずれかである、請求項１～７のいずれか一項に記載の方法。
【請求項９】
前記担体が微結晶性セルロースであり、かつ安定化されたケイ酸に対する負荷容量が５０％未満である、請求項１～８のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１０】
前記押出物が粒子へと球状化される、請求項１～９のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１１】
前記粒子が乾燥され、８００～１２００μｍの粒径をもつ、請求項１～１０のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１２】

請求項１～１１の方法によって得られる押出物。
【請求項１３】
動物用飼料、補助飼料、人の食料及び／又は補助食料の製造に、並びに医薬又は化粧品製造に、並びに感染症、爪、毛髪、皮膚、歯、コラーゲン、結合組織、骨、骨減少症、細胞生成及び変性（老化）プロセスの治療に用いるための、請求項１２に記載された押出物。
【請求項１４】
請求項１２に記載された押出物を含む医薬組成物。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１５】
（製造例Ａ）
塩化コリンをドライの塩化水素酸で処理する。得られるコリン溶液に四塩化ケイ素（ＩＶ）を加える（塩化コリンに対する$SiCl_4$の割合は、１～５ｍｏｌ当り１ｍｏｌ）。－１０℃～－３０℃の温度範囲に冷却しながら、得られた溶液を水添加（氷／氷水）によって加水分解する。水酸化ナトリウムを加え、かつ温度を０℃より低く保つことによってこの溶液を中性化する。最終的なｐＨは１～１．５である。活性炭による精製に続けて、沈殿物を活性炭とともに濾別する。２．５～３．５体積％のケイ素、６５～７５質量％のコリン、及び１５～２５質量％の水を含有する調製物が得られるまで、真空下での蒸留によって含水量を低下させる。絶え間なく攪拌しながら、３５％のこの安定化されたケイ酸溶液（２１０ｇ）を、６５％の微結晶性セルロース（Ａｖｉｃｅｌ ｐＨ １０１又はＶｉｖａｐｕｒ ｔｙｐｅ １９１、１３９０ｇ）にゆっくり加える。脱塩水を加え（Ａｖｉｃｅｌの質量の約１７％）、所望の粒子特性を得る。バスケット押出し機（Ｃａｌｅｖａ Ｍｏｄｅｌ １０、Ｓｔｕｒｍｉｎｓｔｅｒ Ｎｅｗｔｏｎ，英国）を使用して、上記の湿った塊状物を押出し成形した。２～３分間、７５０ｒｐｍ（Ｃａｌｅｖａ Ｍｏｄｅｌ １２０ スフェロナイザー、Ｓｔｕｒｍｉｎｓｔｅｒ Ｎｅｗｔｏｎ、英国）で押出物を球状化する。カール・フィッシャー滴定法によって決定して、その含水量が５％未満となるまで、得られた球体を乾燥する。空気にさらされたペレットは、表１に示したように水を急速に吸収する。このペレットのケイ素含有量は、０．７～１．２質量％である。^{29}Ｓｉ－ＮＭＲを使った構造解析は、－３０と－７０ｐｐｍの間、これは炭素（Ｃ）が結合したケイ素（Ｓｉ）に対するスペクトル領域であるが、にいかなるシグナルも示さなかった。このスペクトルは、－７２、－８２、－９２、－１０２、及び－１１２あたりに共鳴を示したが、これらはそれぞれQ^0、Q^1、Q^2、Q^3、及びQ^4化学種に対して特徴的である。１ｍｌのｐＨ９．５緩衝液又は人工胃液Ｒ（欧州薬局方、第４版、３２８頁）中での３５０ｍｇのペレットのインキュベーションの後、主として、化学種Q^0（オルトケイ酸）のシグナルが^{29}Ｓｉ－ＮＭＲスペクトル中にみられる。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１９】
（製造例Ｄ）
塩化コリンをドライの塩化水素酸で処理する。得られるコリン溶液に四塩化ケイ素（ＩＶ）を加える（塩化コリンに対するＳｉＣｌ４の割合は、１～５ｍｏｌ当り１ｍｏｌ）。－１０℃～－３０℃の温度範囲に冷却しながら、水添加（氷／氷水）によって、得られた溶液を加水分解する。水酸化ナトリウムを加え、かつ、温度を０℃より低く保つことによ

って、この溶液を中性化する。最終的なｐＨは１～１．５である。活性炭による精製に続けて、沈殿物を活性炭とともに濾別する。真空下での蒸留によって含水量を低下させる。絶え間なく攪拌しながら、３５％のこの安定化されたケイ酸溶液（２１０ｇ）を、５０％の微結晶性セルロース（Ａｖｉｃｅｌ ｐＨ １０１又はＶｉｖａｐｕｒ ｔｙｐｅ １９１、１３９０ｇ）および１５％の無水のコラーゲン加水分解物にゆっくり加える。脱塩水を加え（Ａｖｉｃｅｌの質量の約１７％）、所望の粒子特性を得る。バスケット押出し機（Ｃａｌｅｖａ Ｍｏｄｅｌ １０、Ｓｔｕｒｍｉｎｓｔｅｒ Ｎｅｗｔｏｎ，英国）を使用して、上記の湿った塊状物を押出し成形する。２～３分間、７５０ｒｐｍ（Ｃａｌｅｖａ Ｍｏｄｅｌ １２０ スフェロナイザー、Ｓｔｕｒｍｉｎｓｔｅｒ Ｎｅｗｔｏｎ、英国）で、この押出物を球状化する。カール・フィッシャー滴定法によって決定した含水量が５％未満となるまで、得られた球体を乾燥する。空気にさらされたペレットは、表１に示したように、水を急速に吸収する。このペレットのケイ素含有量は、０．３～１．２質量％である。